

笹 舟 出雲市立乙立幼稚園（島根県出雲市）

地域の素材や環境を活かして、春の散策のタケノコでの活動や舟作りなど様々な竹を教材にし、年間を通して「竹の活動」を展開した。自分の思いを発揮し、不思議に気づき、わかり、その過程において、ワクワクドキドキ心がときめくのを感じながら意欲的に取り組み、発見や理解をするごとに自信につながっていきました。この事例は、その「竹の活動」の1事例です。

<場面1 側溝で遊ぶ>

園児が自然の中で遊ぶ環境「もりもりランド」（散歩するほどの距離あり地域の方々の協力を得てできた）に遊びに行った帰り道、側溝に草をちぎって流したり側溝の中を歩いたりして、水の流れや葉が流れる様子、水温など感じて遊ぶ。



「わー流れとる 流れとる」「速い速い」「ひっついたー(くっつく)」「いっしょに 流れるー」「わー 水が落ちるー(段差がある)」「気持ちいいがー!」「葉っぱも一緒に流れとーわ!」「水が冷たくないわ!」「(草が足にあたって)こちょばしいー」

<場面2 笹舟を作る>

保育者が笹を採って舟を作っているのを見て作り、側溝に流す。上手くできず、保育者の援助を得て作り流す。



「わー流れる流れるー」「こっちも流れたー」「・・・」「ばらばらになったー」「わたしもー」「何でー」「何でだでー」「...?」「こうしてしたにー」くやしがる。・・・次への意欲につながる。

なかなか笹を裂いて作りにくい様子で「小さいのはできんわ」「もっと大きいとできるかも?」言いながら作っていた。小竹の笹に加えて保育者が設定した幅の広いクマ笹に気付き、「大きい!」「大きいのにするわ!」と黙々と作る。

<場面3 考える工夫する>

ホチキスなども使い、いろいろな形の笹舟を作り、実際に側溝で流す。高さがあると倒れることや壊れやすいことに気付く。現地で作り直したり二層舟やつながって流れる舟など新しく考えて工夫したりして作り、笹舟の遊びを楽しむ。



<場面4 発見>

- ・ 笹が水をはじいてながれている。
- ・ 陽にあたると乾く。水につけたら枯れないが乾いた笹が枯れてしまう。
- ・ 二層舟など船をつなぐことで安定してながれる（流れ方が違う）。



など、遊びながら発見し、壊れない舟（安定）、形がかっこいい舟（スマートさ）、遠くまでスムーズに流れる舟（ひっかからず素早く流れる）**強い舟**を作ること考える。そこで、たけのこの皮で舟を作る。思うような強い舟ができることがわかり**素材をそのまま使うのではなく折ったり曲げたり丸めたり工夫して作る。身近な「かたらの葉」でも作る。素材による違いに気付き、新たな発見や工夫を楽しむながら遊びが展開する。** **竹で舟を作ろう**

「たけのこの皮で作ったらー!?!」「なんでー?」「壊れんよ」「作れるー?」「できたー だって葉っぱではさんだもん」「こっちも壊れん」(竹の枝を付けた舟)落ちてても壊れない。「かたらの葉っぱもよかった」「かたらの葉っているんなことができるね」成功!「やったー!!!」

連絡帳より（年中児の母）

笹舟を作ったことがなかったので、我が子から作り方を教えてもらい作りました。作るとさっそく側溝で流しました。ゆったりとした時間が流れ、とても良かったです。「よく作るな」と、我が子ながら感心しました。ありがとうございました。

みどころ

いつもの散歩の帰り道に側溝の流れを感じた子どもたちが、この笹舟の遊びを通して、様々な葉の特徴や水の流れ、自然物を使って舟を作る工夫、時間の経過や状況による葉の違いなど、遊びながら多くの発見や学びを楽しむ体験をし、成長しています。「強い舟」を作るという目的や意欲をもつ姿が引き出されたことで、子どもたち自身が有能感を味わい遊びを楽しむ体験につながっています。

このように、地域の環境や特徴的で操作性のある教材を丁寧に取り上げることで、幼児なりに主体的に遊びや生活に取り入れることができ、子どもたちの豊かな体験に結びつくと期待できます。